

「全鍍連」 2016年 5月号 巻頭言

全鍍連情報・国際委員長 島田 博雄（東邦メッキ(株) 代表取締役）

「東日本大震災の記憶」



東日本大震災が起きて5年が経過しました。今年の3月11日、震災の日に合わせて、東北・北海道表面処理工業組合青年部「北青会」が主管となり、第4回めっき業界「未来を担う若手の集い」が開催されました。全国から70名を超える青年部の方々が集まり、記念講演、懇親会と大いに盛り上がりましたが、震災の教訓を考える機会となればありがたいと思います。

2011年3月11日午後2時46分、私は自宅マンションの12階にいました。激しい揺れが来て、「ついに宮城県沖地震が来た！」と思いました（当時はかなりの確率で宮城県沖地震が来ると予想されておりましたが、今回の地震は想定されている震源域とは違っておりました）。思わず台所の食器棚の扉を押さえたのですが、周りからどんどんものが落ちてきたり、冷蔵庫の扉が開き、中のものが外に飛び出したりで押さえるのを諦めました。揺れは一向に収まらず、このままビルが倒壊するかも知れない、死ぬかも知れないと本当に感じました。やっと揺れが収まり、周りを見ると足の踏み場もありません。一応地震を想定して棚物は転倒防止の棒で押さえており、これは効果があり横にずれた程度でしたが、重いから大丈夫と思っていた昔のテレビは1メートル以上も飛ばされておりました。

「世の中何が起きても不思議でない」と言う言葉が実感です。二度とこのような事態に遭遇したくないという気持ちは一生変わることはないでしょう。今回の地震では2万人余りの人々が亡くなられ、また、行方不明となりました。もし、地震だけであれば倒壊した建物も少なく、人的被害もさほどではなかったのですが、巨大津波で多くの犠牲者を出してしまいました。そして福島原発事故です。震災後の港湾の復旧工事は95%以上完了し、岩手県、宮城県の漁獲高は震災前の水準にほぼ戻っておりますが、福島県はまだ20%程度です。放射能の影響で本格操業が出来ず試験操業のところもあり、風評被害で魚が売れません。避難のため人口が0の町もあるのです。まさに不条理と言わざるを得ないでしょう。復旧工事の遅れ、災害公営住宅をはじめ移転の問題、産業の創生、人口減少等々、書き切れないほどの難問が山積しております。

当組合員の会社においても、津波で全壊あるいは浸水、地震による建屋の損壊、会社だけでなく、従業員の家屋への被害、そして何よりも大事な家族、親族、知人を亡くされた方も大勢います。幸い当組合員で廃業するところはありませんでした。これも全鍍連様、各組合様からの温かいご支援、励ましがあつたからと思います。

自然災害だけでなく、めっき業界には有害物質を扱うことに伴う環境・労働等の多くの法律がたくさんあり、どれもおろそ

かに出来ません。全鍍連はこれら一つ一つに真剣に向き合い、考え、対処できる組織です。これから益々全鍍連のパワーが必要となるでしょう。